

令和5年度 日本血液事業学会事業報告

◎会員数 令和5年4月1日現在

A会員	6,351名
B会員	43名
合 計	6,394名

◎学会機関誌「血液事業」の発行

第46巻第1号	2023年 5月	6,627部
第46巻第2号	2023年 9月	6,869部 (抄録集)
第46巻第3号	2024年 1月	6,623部
第46巻第4号	2024年 2月	6,622部
合 計		26,741部

◎第47回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター

第47回日本血液事業学会総会を令和5年10月3日から5日にかけて、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)で開催いたしました。

現地開催を基本としつつ特別企画、特別講演、教育講演を開催した会場ではWebライブ配信も行いました。

善意の血液を、感謝と責任感を持ってお預かりし、惜しみない研鑽と改善を重ねた技術力、そして安全に確実に、製薬メーカーとして唯一無二の供給力で全国の医療を支える、その誇りを持って議論を深めていただきたいとの思いから、総会テーマを「預かる責任、支える誇り」といたしました。

選定した演題の概要は以下のとおりです。

【特別企画】

『ブロック血液センター所長推薦優秀演題』

オリジナル動画を用いた輸血検査の実技指導

北崎 英晃(日本赤十字社北海道ブロック血液センター)

献血WEB会員サービス「ラブラッド」のイベント機能を活用した「献血協力隊」の取り組みについて

大宮友次郎(宮城県赤十字血液センター)

初流血除去～過量採取防止への取り組み～

北爪 厚子(群馬県赤十字血液センター)

RhD(−)RBC のRhD(+)患者への転用の推進について

加藤 道(愛知県赤十字血液センター)

献血と輸血をつなぐ

～遠隔支援ロボット「Temi(テミ)」を活用した院内学級との交流実施～

渡 友美(兵庫県赤十字血液センター)

地域MRによるブロック内全県を対象とした輸血検査勉強会

—いつでも・どこでも・何度も学べる仕組みづくり—

森 唯(鳥取県赤十字血液センター)

供給予測に繋がる情報収集の取り組みについて

小倉 遼馬(宮崎県赤十字血液センター)

『改善活動本部長賞候補演題』

SNS を活用した進化し続ける推進活動～職員満足度向上を目指して～

西田 智博(埼玉県赤十字血液センター)

宿泊行程における業務改善～移動採血車は走るワーケーションルーム～

鈴木 理絵(北海道赤十字血液センター) 〔改善活動本部長賞〕

若年層啓発の新たな試み「聴く献血セミナー」について

國久 理衣(福井県赤十字血液センター)

ワークライフバランス向上のための事業効率の見直し

柳原 詩織(東京都赤十字血液センター)

継続的な全員参加型5S活動の取り組みについて

吉田 浩子(日本赤十字社九州ブロック血液センター)

Office365の機能を活用した体調不良職員に関する所内伝達のデジタル化

菊池 博也(日本赤十字社北海道ブロック血液センター) 〔特別賞(継続発展賞)〕

移動採血業務ハンドブックの作成

—移動採血現場に関する情報共有促進のための取り組み—

城戸 千聖(福岡県赤十字血液センター)

献血を未来につなぐ～コロナ禍における献血啓発の取り組み～

磯岡 敦美(広島県赤十字血液センター) 〔特別賞(優秀アイディア賞)〕

『血液事業本部・4部会からの報告』

マネジメント部会報告

中西 英夫(日本赤十字社血液事業本部)

献血者対応部会からの報告

羽藤 高明(愛媛県赤十字血液センター)

医療機関対応部会について

北井 晓子(日本赤十字社血液事業本部)

技術安全対応部会報告 2023年

佐竹 正博(日本赤十字社血液事業本部)

【特別講演】

特別講演1：企業を取り巻く献血活動の課題

豊島 勉(本田技研工業株式会社)

特別講演2：2040年の展望～社会保障を中心として～

鈴木 俊彦(日本赤十字社)

特別講演3：千年カルテと電子カルテの未来

吉原 博幸(ライフデータイニシアティブ)

特別講演4：TV動物番組ディレクター 大自然を相手に四苦八苦!?

横須賀孝弘(元NHKチーフディレクター)

特別講演5：薬剤師による国際医療救援

—ウクライナ人道危機緊急救援事業での経験から—

仲里泰太郎〔大阪赤十字病院薬剤部(国際医療救援部)〕

特別講演6：カワサキが描く、ロボティクスによるこれからの社会貢献

亀山 篤(川崎重工業株式会社)

【教育講演】

教育講演1：トヨタ式改善の考え方

麻生 純男(株式会社豊田自動織機)

教育講演2：「教育」から「献血」を見直す

～若年層献血推進への糸口とともに考える～

川治 秀輝(本巣市教育委員会)

教育講演3：新型コロナウィルスなどの感染症とHLAの関連

徳永 勝士(国立研究開発法人国立国際医療研究センター)

教育講演4：働きやすくやりがいのある職場づくり

大久保清子(一宮研伸大学)

教育講演5：製造所における逸脱・OOS/OOT管理について

吉川 信(テルモ株式会社富士宮工場)

教育講演6：血液製剤の製造と輸血療法における品質改善

松下 正(名古屋大学医学部附属病院)

教育講演7：大量出血患者の救命を支える輸血医療環境

山本 晃士(埼玉医科大学総合医療センター)

教育講演8：新興・再興感染症の動向とワクチン戦略

中野 貴司(川崎医科大学)

教育講演9：地域血液センターにおける目標設定と達成戦略

杉田 完爾(山梨県赤十字血液センター前所長)

教育講演10：骨髄不全診療の進歩と輸血の役割

中尾 真二(石川県赤十字血液センター)

教育講演11：我が国における血液安全監視の現状

加藤 栄史(福友病院介護医療院)

教育講演12：造血幹細胞移植の歴史とさい帯血バンクの役割

宮村 耕一(総合犬山中央病院)

教育講演13：小児の輸血療法～在宅輸血の現状と課題～

岩本彰太郎(みえキッズ＆ファミリーホームケアクリニック)

【シンポジウム】

シンポジウム1：「災害時の血液事業継続」のテーマで4題

シンポジウム2：「抗原陰性血～輸血医療のニーズに応えて～」のテーマで4題

シンポジウム3：「血液製剤を扱うということ～献血者の顔を思い浮かべて～」のテーマで5題

シンポジウム4：「感染症関連検査結果の解析と評価」のテーマで5題

【ワークショップ】

ワークショップ1：「血液事業における品質保証体制について

～GMP省令の改正を経て～」のテーマで4題

ワークショップ2：「QC業務の充実～品質管理の重要性を考える～」のテーマで4題

ワークショップ3：「人材の育成と確保」のテーマで4題

ワークショップ4：「看護師の離職防止～魅力ある職場づくり～」のテーマで5題

ワークショップ5：「若年層への献血推進」のテーマで5題

ワークショップ6：「検査通知～献血者とWIN WINであるために～」のテーマで4題

ワークショップ7：「製造部門の責任～輸血医療を支えるために～」のテーマで4題

ワークショップ8：「交通事故発生「0」を目指して」のテーマで4題

ワークショップ9：「リスクマネジメント～重大事例から得られたもの～」のテーマで5題

ワークショップ10：「献血者への接遇向上を考える」のテーマで4題

一般演題は口演124題、ポスター80題の発表がなされました。

また、共催セミナー9社、展示33社、広告24社、寄付10社の協賛をいただきました。

現地参加者909名（会員790名、非会員119名）、Web参加を含めた総参加者は1,062名でした。

今回の総会が、これから業務に取り組まれていく中で、テーマである「預かる責任、支える誇り」を思い起こしていただける一つのきっかけとなれば幸いでございます。

参加者の皆様、協賛いただいた企業の皆様、運営にあたられた株式会社メッド様、会場を提供頂きました愛知県産業労働センター様、ご支援を頂きました日赤サービス様、そして血液事業本部様、東海北陸ブロック内の各血液センターの職員の皆様に感謝申し上げます。